

帰ってきてからホテルでのサービスとして、こういうものでやるということであって、そこはちょっと誤解してほしくありませんし、そのとおりであります。

あともう一つ、観光ガイドや車掌さん、バスやタクシーの運転手さんなど観光客と直接触れ合う方々に、おもしろいしゃべりといいますが、いろんな案内というか、そういうものを手がけていただきたいと思います。委員会でも言いましたが、DJポリスとか、あと箱根登山鉄道の車掌さんとか、あとディズニーランドのジャングルボートでいろいろ解説しながら、おもしろおかしくボートを漕ぐスタッフがいるんですけども、そういったものをぜひこのジオパークのガイド、または普通の公共交通の中での案内とかにぜひ育て上げていただきたいと思いますと思うんですが、そういったしゃべりのプロからレクチャーを受けるという、そういう研修をぜひ進めていただきたいと思いますんですが、その辺は、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに、そのとおりだと思います。いろんな観光地へ行ってガイドの説明を聞いても、やはりただガイドするだけじゃなくて、来た人たちの興味を引きつけるようなそういった話し方、そういったものが重要になると思ってますので、そういった研修等にも努めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

保坂議員。

6番（保坂 悟君）

ぜひいろんな取り組みをしていただいて糸魚川が活性化できるように、またご努力をよろしくお願いいいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。

議長（樋口英一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

昼食時限のため13時まで休憩いたします。

午前 11時58分 休憩

午後 1時00分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

9番（伊藤文博君）

清生クラブ、伊藤文博です。

1、交流人口の拡大による地域活性化について質問いたします。

新幹線開通を1年7か月後に控え、市長の公約にもある交流人口拡大策の確実で効果ある実行は待ったなしの状況です。

また、世界ジオパーク認定も最初の更新審査を終えて、これからの取り組みと成果が問われるところでもあります。

具体的な対策について伺います。

- (1) ジオパークを核とした交流人口拡大策には、お客さんの目線での対応が求められます。色々な立場であらゆる方々が前向きに取り組んでいるところですが、今一つ、効果の程が一般市民に感じられるところまで達していません。今後の方向性、具体的対策について伺います。
- (2) 糸魚川は「食の宝庫」だと思います。他所へ出掛けても、糸魚川市の食文化の高さを見直して帰ってくることになる経験は皆さんが持っていることだと思います。交流人口拡大策の大きなポイントは「食」であります。どう売り出して交流人口拡大に最大限の効果を引き出しますか。
- (3) 新幹線開通は1年7か月後になりました。新幹線開通による利便性の向上を、糸魚川市に来る人を増やして交流人口が拡大する方向に活かしていかなければなりません。一過性に終わらない息の長い対策を講じ続けていく必要があります。どのように考えていますか。
- (4) 駅周辺の活性化も大きな課題です。どこの地方都市でも駅周辺の衰退は激しいものがあります。糸魚川市の玄関口として活性化を図るためには、駅周辺に明確な機能を持たせる必要があると考えます。官・民の役割分担を明確にしながら市民参画、市民協働を促進し、官・民共通の認識の基で活性化を図っていく必要があります。駅前商店街は、各地主家主の所有でありながら、中心市街地という点で糸魚川市民共通の財産でもあります。どのように活性化を図りますか。
- (5) 以上の各項目は密接に関連し、それぞれが相互に良い方向で関連しながら地域活性化を図っていく必要があります。総合的にどのように進めていきますか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、ジオパークを活用した効果的な事業展開を図るため、ジオパーク戦略プロジェクトを策定し進めております。その中の受け入れ体制整備プロジェクトを地道に取り組むことにより、市民一人一人がジオパークの担い手となってもらえるよう進めてまいります。

2点目につきましては、糸魚川の食は交流人口拡大の誘客ポイントであり、ブラック焼きそばや

ジオ井など民間事業者と共同して、魅力的な食となるよう引き続き進めてまいります。

3点目につきましては、行政と民間が一緒になって集客力と継続性のある事業を実施し、糸魚川に行ってみたいと思わせる魅力の発信に努めてまいります。

4点目につきましては、駅北の広域商店街と商工会議所、市による駅北にぎわいづくりの懇談会を本年2月から設けているほか、広域商店街においても独自に勉強会を実施しております。

また、駅前銀座商店街組合では駅北の各商店が、空き店舗の活用を含め新幹線開通によるチャンスをどのように生かし、にぎわいづくりにつなげるかについて取り組んでおりますことから、市と商工会議所が協力して支援してまいります。

5点目につきましては、今後ともジオパーク戦略プロジェクトに基づき、庁内はもとより各種団体との連携を図りながら、ジオパークを活用した事業展開を図ってまいりたいと考えております。以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくご質問申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

今ほど答弁にありました戦略プロジェクトの平成24年から28年の計画では、情報発信・誘致拡大プロジェクト、受け入れ体制整備プロジェクト、鉄道を利用した交流人口拡大プロジェクトの3部門に区分して計画しています。

情報発信について伺います。

この中で関係者とのタイアップによる戦略プロモーションというのがありますが、この戦略プロジェクトを読む限り、日本全国のジオパーク推進地とのタイアップという視点が欠けているんじゃないかと思いますが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回、策定した戦略プロジェクトでは、どちらかというと、当市の取り組みという観点でつくっておりますけれども、現在、日本ジオパークネットワークの中でも、全国のジオパークとの観光交流、そういったものがないかというところで、現在、検討している最中です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

各ジオパークとの観光交流、これはいいんですけど、実際、全国的に見て、まだまだジオパークそのものの知名度が足りない。これに取り組んでいくためには、糸魚川市だけでやっているのでは、やはり大きなエネルギーが必要である。やはりネットワークで協力し合って、ジオパークその

ものの知名度を高めていくというような提示が、やっぱり必要だと思うんですね。糸魚川市だけで取り組んでいくには、やはり厳しいものがある。だから協力し合って、力を出し合って、強力でそのところを推進していくというのは、やっぱり必要ではないかと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のように、やはりジオパークに取り組んだ地域は、それなりに今、ジオパークに関心が高まっておりわけですが、全国的に見た場合には、まだまだ知名度がそう高くない位置にあるわけがあります。

しかし、そういう形で広がりつつあるわけですので、各ジオパークと今ほど交流といいましたが、交流観光というツーリズム的にジオツーリズムをどのように確立するか、今、検討させていただいて、そしてそのネットをしっかりと位置づけし、旅行業者と連携をとって広めていきたいと。一体となったやはりPRを一気に出していきたいという、今、捉え方をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ジオツーリズムという考え方の中で、それぞれジオパーク各地が連携しながら活動していくことによって、徐々にジオパークの知名度が上がってくるというのがあると思うんですけど、やはりそういう取り組み方、これは要するにジオパークそのものを推進していく中に、徐々に広がっていくことを期待するわけですけど、やはりどうしても我々はジオパークに期待する立場で考えたときに、観光関係者から、ジオパーク自体がまだまだ知られてなくて関心も薄いですよと、一般国民の、そこにもっと何とかならないかというものを感じるわけですよ。やっぱりそこに、プラスアルファの取り組みが必要だと思いますね。ジオパークそのものをいかに多くの人たちに、当たり前のよう理解してもらおうかというところですが、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

全国展開させるにいたしましても、ある程度のやはり評価をするものだと、それに値するものだというその点が大事だろう。その辺を今、一旦、日本ジオパーク全体の中でその位置づけをさして、それと同時に、そういう形へもっていきたいという考えであります。

各ジオパーク間での連携といいましょうか、交流でしょうかね、要するに視察旅行的に捉えるよ

うなものをつくりながら、そういった行動、活動をやはり訴えていくという形も1つのインパクトのあるものに、その方向で今捉えさせていただいております。その中には、やはり大手の旅行業者も中に入れながら、情報発信をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

やはり共通した認識の中で、自分のところだけじゃなくジオパークそのものという感覚が、やっぱり必要だと思いますね。

私の東京の友人が、ふるさと糸魚川に強く愛着を持っていて、例えば食談会にも足を運んでくれたり、ネスパス等を夫婦で出かけて情報を伝えてくれる。糸魚川の情報が少なくてがっかりしたと、ネスパスですね、そういう連絡をもらって東京事務所へすぐ連絡して、チェックして対応してもらったということもあります。

私の友人も含めてですけど、東京から見ていると糸魚川市がどのように地域振興を図ろうとしているのかよくわからないと、見えにくいというふうに私自身がハッパをかけられ、何とかしろよということが多いんですが、強い関心を持って人にも糸魚川の情報が伝わっていないというのが、やっぱり反応として現実に感じるわけですね。この辺はどのように捉えて、どういうふうにしていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

確かに私も東京糸魚川会とか関西糸魚川会の方と懇談する中で、糸魚川の情報がなかなか届きにくい、わからないという、そういう話を聞いております。

やはりどういう形で情報提供すれば一番いいのかって、糸魚川市のホームページを見ていただければ、それなりの情報というのはわかるんですけども、じゃあピンポイントで今のまちづくりとか、そういったものを伝えるとなると、ホームページの限界というものもあるのかなというふうには思っております。

そういう中で午前中に質問のありました、渡辺議員のふるさと市民制度みたいな形で関心のある方に適切な情報を与えていく、情報提供する、そういったのも1つの方法かなと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

情報の取り方というのは、自分から取りに行くのと、相手から与えられるものとあると思うんですね。ですから例えば登録していくことによって、定期的に糸魚川市からのお知らせメールが届くとか、渡辺さんの言ったものとちょっとリンクするところがありますけど、いろいろと情報発信

していく手法を考えていったほうがいいと思います。

一般市民にもジオパークって言ってるけど、何も見えてこないという感覚の人が多いですね。私もそういうメールももらったりします。これはそれだけ期待が大きいということなんです。期待に比較して実感が薄いという意味で、全く何もないとは思ってないんですね。確かに取り組みも進んできて、効果があらわれてきていることは間違いないところですが、市民丸ごとジオパークとか、糸魚川丸ごとジオパークというところにもっていくには、まだまだもう少し工夫が必要である、どのような取り組みが必要であったと考えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

議員おっしゃるように市民全体として見たときに、実感が湧いてこないという声もある一方で、かなり頑張ってるねっていう声があるのも事実だというふうに思ってます。実際的には、本当に多くの市民の方からジオパーク活動に参加してきていただいているのは事実だと思ってます。

ただ、その一方で、やはりジオパークに関心がない、ジオパーク活動にあまり参加していない。やはり関心があるかないかでジオパークの動き、効果、そういったものの見方も全然違ってこないかなというふうに思っております。

そういう面で、やはりジオパークに関心を持ち、それからジオパーク活動に参加していただけるよう、より多くの市民に呼びかけるような活動、ジオパーク戦略プロジェクトの2つ目の部分になりますけれども、そういったところを着実に推進していくことが、市民全体に広がっていくんでないかなと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

やっぱり関心のない人を引きずり込んでいくというところが、これからの課題であろうと。関心のある人は、当然、積極的ですし、いろんなイベントにも参加してますし、みずから主体的に動いてる方も多いですね。ただ、ジオパークで糸魚川を何とかしていきたいというところを到達点で見たときには、やはりより多くの人に関心を持っていてもらわなきゃいけない。

先ほどの市外からの話と絡むんですが、ふるさと糸魚川同窓会応援事業では、糸魚川の情報発信を行うことにしてますよね、いろいろなものを配布したりして。ここではぜひ情報収集も行うべきだと思います。市外に住む糸魚川出身者からの情報は、かなり有効ですね、どのように見えているか。糸魚川に全く縁のない人に糸魚川の情報が入ってくるかどうかということよりも、まず先に糸魚川に関心のある人にすらどのような現状であるのかということ、こういう機会にしっかりと情報収集して、その分析と対策の樹立に生かしていくという取り組みが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

企画財政課長（齊藤隆一君）

同窓会事業につきましては今年度の新規事業で、大変ある意味、好評いただいています。

また一方で、当初の目的といいたいまいしょうか、こちらの狙いとすれば、やはりUターン・Iターン等の将来的な部分も含めて、先ほどのふるさと納税も含めてでありますけども、そういったこと。さらには地域経済の活性化、この部分については非常に今のところ効果を出しているというふうには思っておりますけれども、それ以外のUターン・Iターン情報とか、いわゆる定住情報の関係については、すぐ効果があらわれるというもんでもないというふうには思っております。

伊藤議員のおっしゃる部分についても現在の状況の中では、積極的にそういった情報を外へ出しているという状況でありませぬので、その辺も今後の開催に向けての1つの課題と受けとめさせていただきますというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ここの出席者からいろいろ情報をもらう。どのように糸魚川市が見えてますかということを中心にして、それからさっき言った糸魚川市からの例えばお知らせメールとしまししょうか、お知らせメールを受け取りますかというようなことの中で、登録してもらって情報発信をしていく。そしてUターン・Iターン・Jターン情報についても、空き家情報だとかいろいろな市の取り組んでいる、戻ってくる人たち、それから市に入ってくる人たちにとって、こういう糸魚川市は就職の補助金を出してるとかいろいろな情報についても積極的に発信していく。

ホームページに載っていても、やっぱり見ないんですね。一生懸命探していれば見るんですけど、なかなかそこに到達しないという、面倒くささもありますから、そういうふうに取り組んでほしいと思います。

それから戦略プロジェクトの中に、糸魚川市の知名度の低さを逆にとり、よいイメージ、オンリーワンの魅力を強力に打ち出してとありますけど、具体的に、どのように強力に打ち出して印象づけていくんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

やはりオンリーワンというところですので、他の地域にはない糸魚川市の特徴、そういったものを売り出していく、それを入れた商品を出していく、そういったことが必要なのかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

強力に打ち出して印象づけていくということですから、どのように強力に打ち出すのかと云ってるんですよ、オンリーワンとは何かという話をしてるんじゃないで。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

1案といたしましては、新幹線の中に雑誌が毎月出るわけですが、その一番後ろの表紙に、「糸魚川市」と漢字で書いて読めますかと。やはり関心を、少し注目してもらえるようなアピールをしていきたいと思っております、そういうのをやはりこれからどのように打っていけばいいのかというところで、振り向いてくれる、気づいてくれる、そういう気づきをつくっていかなくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

先ほども言いましたが、情報には自分から取りにいく情報と、意識せずに目にする耳にする。

先ほど言われた新幹線の冊子の一番裏のページですね、「糸魚川」って書いてある、心の中で読んでくれと、どこにも平仮名で「いといがわ」って書いてないんですね。ところがアルファベットで、「I t o i g a w a G e o p a r k」と書いてあるから、そこに気がついた人は、うん、なるほどなというところがある、非常におもしろいなと思います。同じ情報でも、おもしろく伝える、取りにいきたいくなる情報の形にする工夫というのが必要であろうと。

また、情報入手の手段として、今の情報がいろいろあふれてる。その形態をしっかりと調べて検討した上で有効な手段をとる。ありとあらゆる情報提供の形に合わせた情報をこちらからどんどん出していく。そういう情報発信の手法というのが、必要になってくると思うんですね。

だからどういう情報を出すかという、オンリーワンとは何か、こういうオンリーワンがあるんだよということに対して、それをどういう媒体で載せていくかというところは相当研究しながら、変化に応じたやり方が必要であると思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

本当に議員ご指摘のとおり、全くそのとおりだと思っております。デジタルの時代の中で、それを先駆けて進めていくことも大事。また、逆に逆手に取って、アナログ的なところでまた示すことも大事だろうと思いますし、大きい花火を上げればいいのか、また、その時を見て適した花火を上げればいいのかという。



やはりことしの夏の糸魚川の花火を見ててわかったのは、遠くで大きいものを上げればいいのか、近くで小さくてもインパクトのあるものが印象づけられるものもあったりして、そのようなことを1つ考えても、我々は人と同じことをやっても、誰も振り向いてくれないわけでございますので、それをどのようにしていくかというのは、非常に工夫していかなくていけないだろうということで捉えさせていただいて、今、1つ進めたわけでございますが、情報を取りにきてくれる方は、それなりに関心があるから見ていただくんですが、そうでないところに、どのようにかけていくかというところを、やはりもう一度しっかり考えた中で、手を打っていかなくちゃいけないんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

こちらが伝えたい情報を、例えばDVDにして見てください、まず見ないですね、本当にどうしても必要なものでなければ。やっぱりそういう1つのDVDを、例えばプレイヤーの中に入れて見る、そのことですら、その手段が1つあるためにやっぱりなかなか見ない。

ところがネットですと、パッパッとすぐ出てくるとか、今、スマホとかタブレットPCの時代ですから、そういうところもあるし、また使わない紙媒体も必要と。言われるとおりですので、ぜひいろいろと研究しながら進めてもらいたいと思いますね。

それからジオパークを含めて、交流人口の拡大に取り組んでいる方々の思いは同じベクトルなんです、到達点は同じなんです。ところが、どうもまだばらばらにやってる感がありますよね。そんなひどいばらばらじゃないんですけど、もう少しまとまって連携して、このことと、このことを協力したら、もっとうまくいくのにとというようなことがある。お互いに常に情報交換しながら横の連携を深めて、動きやすいネットワークをつくっていく必要があるんだと思いますね。

これはチーム糸魚川という考え方と重なってくるわけですけど、ポイントは日常的な情報交換だと思うんですよ。何とかの会議でやるとか、会議になるとしゃべらないでしょう。大勢の人がいて、一人一人が思いのたけしゃべってたら、なかなか会議が進まないから、結局、たくさんしゃべれば、もうあいつはしゃべり過ぎると言われるぐらいの話になる。だから日常的な情報交換だと思うんですよ。やっぱりここには、非常に工夫の余地がたくさんある、また、工夫するべきだと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えします。

まさしくそのとおりで、今、我々は全国に、また市内の皆様方にも情報発信するものは、非常にたくさん手段を持っとるんですが、しかし、今、議員ご指摘のように、どのような形で上げたって見てくれなかったり、自分の心の中に受けとめてくれなかったら、全然開かれないことになるわけございまして、それが今、一番の広がっていかない1つの理由でないかなと思ってる次第でござい

ざいまして、先ほど渡辺議員のご指摘にあったように人と人とをやっぱりつなげること、そういったことを先にやって、その中で広げていける。その中で、あといろんな手法によって開いていけるんだと思ってまして、その辺をつなげていくことが、まず先かなと捉えてる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

その思いを、具体的に形にしていかなきゃいけないわけですよ。それもやはりいろんな人が意見交換しながら、いろいろ工夫を重ねていく。

例えば、適切かどうかわかりませんが、ジオパークコミュニケーションコーナーなんていうのがどこかにあって、そこはいつも人が来て何かわいわい、わいわいと、地域活性化について話をしているなんていうところができたら非常にいいと思います。この点は、やはり本気になって検討してもらいたいと思いますね。

次、食のほうへいきますが、食は人を呼ぶには最大の武器だと思います。

糸魚川市は食材が素晴らしいことによって、おいしいものには事欠かない。北海道旅行へ私も行きましたが、食べ物に非常に期待を持っていったんですけど、全然期待外れなんですよ。糸魚川でうまいもん食べてるから、北海道でもそんなにうまいと思わない。いや、おいしいですよ。おいしいけど、当たり前でしかないということですね。そういう経験を持ってる人も多いと思います。しかし、それと売るということは違うんですね、あるということと売るということは違う。その売るということについて、どのように考えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

確かにおいしい食があっても、食べていただかなければ意味がないわけでございます。昨年、はとバスツアーの参加者400人に行ったアンケートでも、参加したいツアーとして、やはり温泉に宿泊して、四季折々の山菜料理や地魚料理、それから地酒を楽しむぜいたくグルメツアーというのが、一番人気という形になっていました。

そういうのを考えると、当市の素材というのはそれら全てがあるので、そういったものをうまく組み合わせて、やはり行ってみたい、食べてみたい、泊まってみたい、そういった商品づくりを、やはり行政でつくれるものではありませんので、観光協会とか民間事業者と協議する中で、そういった方向で進めてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

今、最後のところにありました民間と協議しながら進めていくという、やっぱり行政は行政でトー

タルにものを考えてる中で、例えばお酒の部門の人とか、いろんなもののコーディネーター役をしていかなきゃいけないということなんです。

そこで来訪者、来てくれる人の視点でものを考えていく必要があります。糸魚川の飲食関係が、これまでそれぞれ努力をしてきたという部分にプラスして、何らかのやっぱり取り組みが必要だと思っんです。やっぱり取りまとめた情報の発信の仕方とか、例えばブラック焼きそばとかジオ井にいわれるような1つのテーマを決めた取り組みとか、それとか季節折々の取り組みとか、何かそういうものが必要になってくるんじゃないかなと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これは食だけではないかと思うんですが、やはりストーリー性が大事だろうと思っております。

まずは、やはり当然、質のいい食材、それにプラス、ストーリー性、地域性なりいろんなものを、やはりそれに織りまぜて提供することが、魅力のある提供の仕方になるんだらうと考えてる次第でございます。我々のところはやはり少量多品目という形の中で、そしてなかなか季節ごとに変わるという、そういったところをやはり強く生かさなくてはいけないんだらうと思っております。その辺を整理をしながら、提供していくことが大切だらうと思っております。

それともう1つは、やはり横の連携というのが大事になってくるわけでございます。先ほど1つ例にいただきましたように、ジオ井にいたしましても各店舗が違う井をつくっても、ただ、それはジオ井という1つのテーマがなかったら、単なる井での1つの店としてのものでしかないんですが、ジオ井という名をつけることによって、また楽しみなりがつながるという部分が出てくるわけでございますので、そのようなことが手法になるんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

情報をまとめて伝えて、利用者にわかりやすくして利用してもらおうという観点を意識した取り組みも必要じゃないか、要するに飲食店なんか、テーマを与えて。これは何も新しいメニューづくりだけとは限らないわけですけど、糸魚川の食マップというようなものを考えたときに、その食マップをつくることによって、また課題が明らかになってきて、その飲食店にこういうふうにしたいんだけど、おたくで何かないですかというようなことの中で、また工夫が重なってくるというようなこともあって、また、その飲食関係同士の競争も始まる。スパイラルアップして行って、レベルアップしていくんじゃないかというようなこともあると思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

お互いに競い合いなり、そういう環境づくりが大事だろうと思っております。特に、能生エリアのラーメンは、非常に皆さんに評判がいいのも、そういった関係にあるのかもしれませんが。そのように1店舗だけでというのは、なかなか難しいわけございまして、数多くある店舗で専門の皆様方がやっぱり中心にいていただかなくちゃだめなんです、そういう中で戦略的なものをみんなで協議をしながら、つくり上げていかななくてはいけないのではないかなと思っております。

それがなかなかないから、今、議員ご指摘のように、方向性が少しまとまってないんじゃないかなということに見えるんでないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

食に関しても小冊子みたいなものが結構あって、やっぱりみんな工夫してるんですよ。ところが1つにまとまっていて、例えば僕らがこれ見てくださいよと、これ見てもらえばというような決定版みたいなものがないというのが、今、現状だと思うんです。やはりそこに取り組みが必要。

それからブラック焼きそばやジオ丼みたいに、1つのテーマをつくってやっているわけですよ。残念なのは、これ1回に1食しか食べられないですよ。だからブラック焼きそばが、いろんなところに、いろんな味があるといったときに、じゃあどこがおいしいんですかって聞いて行ったら、それ1食で終わっちゃう、ほかも食べてみたいと思ってもできない。だとすれば、食べ歩きメニューみたいなものがあってもいいんじゃないかと。

例えば4分の1食ぐらいのもので、4店舗食べ歩けるとか、やはり自分たちが味わってるわけですよ。おいしいもんがいっぱいあったって、決められた量しか食べられないということに対するジレンマがあるのを観光客の立場で考えれば、じゃあこんな工夫があるんじゃないのというのが出てくると思うんです。やはりそういうことを話し合って、みんなで工夫していく場が必要だと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに2分の1のものはあるみたいなんです、今言われるように味わってみたいという形になってくると、なかなかそれが限られた時間の中では難しい部分でございますので、やはり何店舗も見て味わえる、そして楽しみが増していけるという事柄が大事になってくると思っております。

そして何といたっても、やっぱりストーリー性なり、そういった1つの連携というものをどこかに1つ見出していただいて、進めていくことが大事なんだろう。やはり各店舗はみんな、1つの縦割りのしっかりとした組織であります、どこかでつながってるということにならないと、やはりだめなんだろうと。それを要するに行政も中に入ったり、また、団体の皆様方も組織としてつくって、立ち上がっていかなくてはいけないだろうと。その辺をまた提供される皆様方と懇談をしながら、

つくり上げていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ぜひ工夫をお願いします。

お江戸日本橋糸魚川食談会って銘打ったんですかね、食談会が行われました。これは糸魚川の食材を首都圏の飲食関係者に売り込む、ある意味つながりを創出する取り組みだと思ってるんですが、これちょっとびっくりしたんですけど、糸魚川市のホームページに載ってないんですよ。少なくとも私は見つけられなかった。ということは、見にいっても見つけられない人が、あったとしても、見つけられない人が多いと思うんですけど、これはどういう状況でしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

商工農林水産課長（斉藤 孝君）

お答えいたします。

8月22日以前には、ホームページには載せておりましたけども、イベント開催以降は、その情報は落とさせていただいたということでございます。

なお、22日には25社、70名の方がお見えになりましたので、その方々の感想も含めながら、いま一度ホームページでPRする必要があるのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

後から話を聞いて興味を持ってね、じゃあ糸魚川市のホームページを見て、自分も何かそこにかかわっていかうかと思った人が、いや、開いてもどこにも出てない、なんだ、大した熱が入ってないのかというようなことになっちゃうと思う。

例えば僕の友人も行ってくれたと言いましたけど、やっぱりそこから飲食関係の仲間に声かけてという話もしてましたから、そうなってくるとやっぱり今は誰でも、まず、最初にホームページを見に行きますよね。ぜひそのところは、今言われたとおりに再アップして、そこからまた広がっていくような形をとってもらいたい。

食談会は糸魚川の食材の売り込みですよ。糸魚川の食材を売り込むのと、それから今度は糸魚川での食を売り込んでいくことということはどう関連づけていくか。糸魚川のものを売ると、糸魚川に来てもらって食べてもらうというところで、糸魚川の食材を利用してくれる人たちに、今度は糸魚川の情報発信してくださいよと、こんなうまいもんあるんだからというようなやっぱり相互の取り組みというのが、今後、望まれていくと思うんですが、可能性としてありますよね。どう考えますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もその状況を見学いたしました。非常に好評でありました。そういう中で、ただ食材だけではなくて、加工、料理をしたものも提供させていただきました。このような食材は、地元ではこのような食品といいましょうか、料理としてつくって食べてますと。地元の食文化ですというような言い方もしながら提供させていただいて、非常にそれも関心を持ってもらいました。

そういうことがやはり東京で、食堂なり、レストランなり、居酒屋で広がることが、やはり糸魚川にフィードバックしてくるんじゃないか。もしかしたら、じゃあ糸魚川へ行って食べてみようじゃないかという形になっていただければと、それを狙っていきたいということで、逆に先ほどのふるさと市民の会と同じように、まず、基地的なものをつくっていかなくちゃいけないだろう。

ただ不特定多数の人たちだけに、いろいろ今まではずっとやってまいりました。食品を販売したり商品を販売してきたんですが、そのままなかなか広がりも見えなかったものでございますので、今度はそういう形で、しっかりとした根を張っていくPRも必要じゃないかというような形で、今進めさせていただいて、これをもっと広げていきたい。商取引するのが、全てでないだろうと思っております。しかし、おいでいただいた方々が、非常に関心を持ってきていただいたんだろうということで、そういった人たちにまたアプローチをかけていきたいという考え方であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

糸魚川の食材を使った首都圏の飲食店に関する情報ですね、それは理解をしてもらえれば糸魚川市のホームページの中で、また情報発信をしていくと。向こうには糸魚川市を売り込んでもらうというようなことをして、その形がいいかどうかわかりませんが、もっといい形もあるかもしれませんから、研究して取り組んでいただきたいと思えますね。

食で人を呼んで、ジオパークを楽しんでもらう。また、ジオパークに引かれて来る人を食でもてなす。戦略プロジェクトでも食に関する情報発信の部分が、文面を読む限りはちょっと弱いような気がするんですね。やはりジオパークそのものに関する情報発信というところに終始をしているような気がします。ぜひ食の情報発信というのを絡めてもらって、もう少し糸魚川へ来たい心をくすぐる情報発信というか、情報の提供というところに着眼してもらいたいと思うんですが、着眼してないことはないんですけど、もうちょっとしっかりと打ち出してもらいたいと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

先ほど議員さんがおっしゃったとおり食の観光パンフ、そういったものも私、ぜひあったらいいなという思いは持っています。ただ、若干気になるのは、やはり行政としてそういうものをつくるときに、どうしても公平性、平等性というのは少し邪魔をする面も出てきますので、どういう形で、どういうところと協力していけばいいか検討する中で、ぜひ糸魚川に来て、ここへ来るとこういうものが食べれる、そういったもののパンフレットの的なものは、つくってほしいなという思いは持っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

市でパンフレットつくってくださいよと言ってるわけじゃないんですよ。それはつくるのは、どこでもいいんですね、協力してやっていけばいいんですから。ただ、やはりこれがじゃあ公式のものですよって、一番今の全体がわかるものですよというのが出てくればいいし、そういうのがつくれるということは、ホームページ上にもどのような形で載せていけることになりますよね。外から見て、ああ、糸魚川って食でこんなに連携があって、行ったら楽しみだなというふうなことが感じ取れる情報発信の仕方ということが、非常に大事だなと思います。

食マップ1つにしても、やはり今までのものを総括してつくっていくということになるんでしょうけど、だけどこれも変化するでしょう。それぞれ飲食店が工夫していったら変わっていくわけですから、やはりそういうことを前提にした取り組みをしていかなきゃいけない。市がつくったんでは、なかなかそういう柔軟な対応をしにくいと思いますから、やはりそこも含めて検討していただきたいと思います。

それでは、次へいきます。

新幹線に着眼した場合に、まず、新幹線を使って糸魚川に来てもらう。これは交通手段として利便性が高まったということに、極端な言い方をすれば、それにすぎないんですね。ところが、これは大きな変化である、環境の変化であるというふうに捉えた取り組みが必要ですし、また一方で、新幹線があってもなくても糸魚川に来たいと思ってもらえる取り組みが必要である。新幹線があることによって、距離感が縮まって観光対象となりやすくなる。

新幹線が開通するということに対する地元の我々の意識と、市外や他県からの捉え方の違いに着眼した取り組み方というのが必要である。新幹線が、我々はとまるというのは非常に大きなことですけど、そのことがじゃあよそから見て、どういう意味があるのかというところに着眼した取り組みが必要だと思うんですね。これはどのように考えているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

新幹線が開業して何が変わるかというと、やはり一番大きなものは、時間短縮が一番大きな変化になると思います。それともう1つは、やはり首都圏から来るということを考えて、今まで乗り

継ぎが必要だったのが乗り継ぎがなくなると。それと、やはり新幹線開業という大きなイベントの中で糸魚川駅、そういったもののPR効果、そういったものも非常に大きいんじゃないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

新幹線が開通することによる変化そのものを聞いたわけではないんですが、要するに地元の新幹線が通るようになって、非常に利便性が高まってきたという意識の中で、これで来てもらわなきゃいけないということと、ほかから見たときに、やはり糸魚川に新幹線が通ることの意味というところのPRの仕方というのは、おのずとちょっとちょっと違ってくるんじゃないかなと思うんですよ。そこのところを言ってるんですが、そういう意識は持ってもらいたいということですね。

それから在来線利用者からは、マイレール意識を持ってもらって利用促進を図るといいますが、例えば糸魚川市内の大系線、北陸本線沿線市民が、在来線を利用するために必要な条件というものに何が考えられ、現状はそれに対してどうなっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

在来線を利用する方にとっては今よりも、できれば新幹線によって長距離の交通手段は新幹線が担うわけですが、今度は少しコンパクトな会社になることによって、例えば今、富山方面へは20本走っとるもの、直江津へは14本しかない。そういうものをできるだけ、もう少しコンパクトになった形の中でダイヤをもう少し、例えば忙しいときのダイヤを詰めて、閑散なときは少しあけるとか、ある程度フリーな形、自由な形で計画できるという、そういうものを追求していく必要がありますし、当然、新幹線との乗り継ぎ等も工夫していく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

観光客を呼ぶというのは別にして、市内の人がたくさん利用してもらいたいといったときには2次交通ですよ。2次交通が充実してないと駅までの足、それから駅からの足という。その場合に、例えば大系線を考えたときに駅周辺の、駅までは自分の車で行くけど、そこから電車で行こうとしたときの駐車場の問題とか、果たして駐車場を用意して、そういう利用者がどれだけふえるかわからないんですけど、やはり地域と一体になって、そういうことを考えて取り組んでいく必要があるだろうというふうに思います。やはりそういう条件を把握して、対応していただきたいと思えますね。

大系線はジオ鉄として、外部からの利用者確保を図ろうとしていますが、具体的に戦略プロジェクトの内容では、ちょっと具体的には言いませんが、十分なものとちょっと感じられないんですよ



ね。この戦略プロジェクトの内容で、ジオ鉄としての活性化は十分だと思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

今この鉄道を利用したジオパークの利用ということで、ここに大きな3つの柱のうちの1つとして書かせてもらっております。その中ではまだ正直、具体的に新幹線のダイヤに合わせて大系線をどのようなふうにご利用するか、それから今言った新幹線に対しての2次交通として、ジオパークをどのような形でめぐっていくか。それは鉄道もありますし、それからバスもあると思いますが、まだ個々の細かい詰めはしてないというところが、正直なところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

ジオ鉄としての取り組みとしてどんなものが必要かというのは、やっぱりジオ鉄というか、鉄道マニアみたいな人たちの声を聞いてみることも必要だと思うんですね。計画段階では糸魚川市が情報発信して、糸魚川市と一体となって、そのテーマに取り組んでみませんかというような参加者を募るとかいうのも方法としてあると思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まずは新幹線は、やはり北アルプスの玄関口であり、また、海への玄関口であるわけでありまして。そういう中で、今のえちごトキめき鉄道の日本海ラインと、また、大系線についてはどのように演出していくか、どのようにアピールをしていくかというのは、やはり大きな今ご指摘の点だろうと思うわけございまして、大系線のほうは、今、少なくとも広域観光連携をとらせていただいている皆さんと一体となっていないと、ばらばらでもやはりおもしろくない、ちぐはぐになっていくんだろうと思うわけございまして、そのような演出の仕方。そして日本海側については、日本海側をどのように魅力づくりをしていくか、非常にこれ難しい部分で、もうそんなのがあれば、とっくの昔にJRが取り組んでいたでしょうし、我々も行ったわけでございますが、その辺も含めて、これから会社の皆さんと詰めなくてはいけないだろう。

魅力をつくらなかったらだめございまして、市民の足といってもやはり人口減少や高齢化社会の中においては、そんなにご利用というのは急激にふえないだろうと思うわけございまして、やはり観光客も来ていただく環境づくりは、どうしてもその中でつくっていかなくてはならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

新幹線の来訪者を確保するためには、停車本数もふやして利便性を高めていかなきゃいけない。そのためには今、市長が言いましたアルプスと海の両方の玄関口だという側面があって、長野県、富山県方面からの糸魚川駅利用者をふやす努力も必要である。停車本数をそれで確保していく。そのためには開通後の実態調査も必要であろうと。

例えば富山県から糸魚川駅を利用する人が多いとなると、富山県の並行在来線の会社の糸魚川までの乗り入れ本数をふやすということにもなっていて、利便性も高まってくるというような考え方をしていかなきゃいけないと思うんですね。どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

当然、今、計画段階では現実にあったり、それから今のダイヤに即した本数を確保しておりますが、当然、会社ができ上がって新幹線が動いた中で、また当然、実態調査をして、それに応じたそれぞれとき鉄、それからあいの風富山とも、調整しながら動かしていかなければならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

駅を中心とした機能ですけど、糸魚川駅が持つべき機能としては、私の考えですよ、案内機能、それからジオパーク観光や食観光のスタートポイント、ゴールポイントとなり得るハード・ソフト両面の設定。それから買い物、土産物という観点での王国館へのアクセスというようなことがあります。案内機能というのは、南北両方でのことを言ってますが、今、具体的に検討されてる段階だと思うんですけど、検討の状況はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

交流観光課長（藤田年明君）

お答えします。

今、新幹線ができたときには新幹線駅舎の1階に、観光協会の事務所も含めて、そこで案内機能をつくりたいというふうに思ってます。

今現状、観光協会がいるヒスイ王国館、その案内機能も何らかの形では必要であるというふうに思っておりますけれども、ただ、具体的にどういう形で運営するかというところまでは、まだ至っておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

都市整備課長（金子晴彦君）

もう1点、自由通路の各改札口、JR、それから新幹線になりますけど、その正面にはマルチディスプレイ等4面マルチを配置しまして、それぞれ北側の待合室、それから今、新幹線の駅舎側に今考えておりますジオパークの情報発信コーナー等へディスプレイを配置して、そこへ情報がつながるような形を設けておりますし、そこへ流すものにしても市の情報を流したり、それから、また各いろんな商店の情報を流したりするような形で、今、計画しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

電子媒体を使って情報を発信していくっていうんですけど、更新しやすい仕組みをつくってもらいたいと思いますね。1回業者に頼んでまた作り直すと、うんと金がかかるんじゃないかと、担当者がもう簡単につくり直して、発信したいと思う情報が簡単に発信できるようにしてもらいたい。コストの面も考えて、両方に多くの人員が要するというのではない形にしてもらいたいと思います。

そして駅に降り立った人が、自然に自分が望むコースに導かれていくというような観光客の視点に立って、聞いたら、あっち行ってください、こっち行ってくださいと振り回されるようなことではないような有用の仕組みをつくってもらいたいと思います。

それから現在、橋上駅舎からヒスイ王国館への渡り廊下が設定されていますが、その整備がされた時点で利用者の動き、これも目線で考えなければならぬ。駅を利用する観光客の観点から見ると、王国館は2階に土産物売り場があったほうが絶対いいですよ。地元の人間にとってはちょっとした違いでも、駅利用者から見たら大きな違いですね。あれまたあそこから下へおりにいっていくと。駅利用者から見ると地下へおりるような感覚になるわけですけど、この辺は検討されていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

その点につきましては、今後、タウンセンターの取締役会が間もなく開かれますので、その席で検討したいということで考えてます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

副市長は短い言葉で、わけわからんことを答えるのが得意なんだけど、結局、そのことについて検討するということなんですけど、今、下の土産物売り場、それからテナントを出している人たちは、大分やっぱり苦労してますよね。人の流れの中を拾いあげられなくて、ですからやはり王国館

側の考え方はあるでしょうが、やはり考え方をしっかり伝えて、それできちっと検討してもらいたいというふうに思いますが、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今、ヒスイ王国館と駅との連絡関係につきましてようやくまとまって、これから実施に入るという段階であります。そういったことで、ヒスイ王国館の中のところまで、まだ検討してない段階でございますけども、今後、それについて検討させてもらいたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

中心市街地の活性化は30年来の課題としてきたところですから、今から何ができるかという非常に困難な問題だと思っています。根本的な問題を、しっかり捉えて考えるということは必要だと思うんですね、できるかできないかじゃなくてですよ。今の問題は何なのか、30年間取り組んでこれなかったことが何で、どういう課題があるのか、そういうことをしっかりと真正面から捉えて検討していく。できないことはできないけど、じゃあかわりになる、こういう補う方法はないのかというような理論展開が必要だと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

市長（米田 徹君）

お答えいたします。

以前からもいろいろ活性化策、また、いろんな構想を捉えてくる中において、実現できなかったものが結構数多くあるわけです。それもやはりもう一度、検証しなくちゃいけないだろうと思っております。限られた新幹線開業というその時間までの間に、そういったところもやはり検討しながら、できればそれに間に合うような対応をしていかなくちゃいけないだろうと。

駅前銀座商店街通りにつきましては、今、電線の地中化にあわせながらアーケードを取り組んでおるわけですので、そういったところは今の流れで進んでいかなくちゃいけないし、進んでいくと思っております。それに対しては行政も、支援をしていかなくちゃいけないと思っておるわけでありませう。

中心商店街につきましては、やはりいま一度、全体でしっかりと捉えて考えて、まとまらなければいけないと思っております。新幹線開業だけを見据えて、あまりにもまた見切り発車して、途中で頓挫するようなことがあってはならないだろうと思っております。しっかりとした、やはりまとまって対応できる構想づくりなり考えを進めていけるよう、行政もその中に加わらせていただきながら、まとめていければと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

伊藤議員。

9番（伊藤文博君）

続きはまたやります。ありがとうございました。

議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

14時15分まで休憩いたします。

午後2時05分 休憩

午後2時15分 開議

議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

議長（樋口英一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告に基づいて、第1回目の質問をさせていただきます。

1、ジオパークと観光の取り組みについて。

「世界ジオパーク認定と北陸新幹線東京 金沢間開業は糸魚川市に訪れたチャンス」と言われます。これに合わせ「糸魚川ジオパーク戦略プラン」を作成し、各施策により交流人口拡大の取り組みを行っているところでございますが、観光を中心にその成果や課題について伺います。

(1) ジオパークについて。

今年は日本及び世界ジオパーク再認定審査の年ですが、再認定審査で指摘された課題について。

新しくジオパーク認定に向けて取り組む地域の状況について。

今後の「ジオ鉄」推進に大糸線の小谷・白馬、北陸本線沿線の名立駅など、他自治体との連携を考えていますか。

(2) 観光について。

従来の発地型観光から着地型観光に重点を置くように観光の流れは変わってきてまいっております。

ア 糸魚川市の着地型観光の取組状況について。

イ 着地型観光には、地域からの企画力、情報発信、市民の連携が求められますが、その